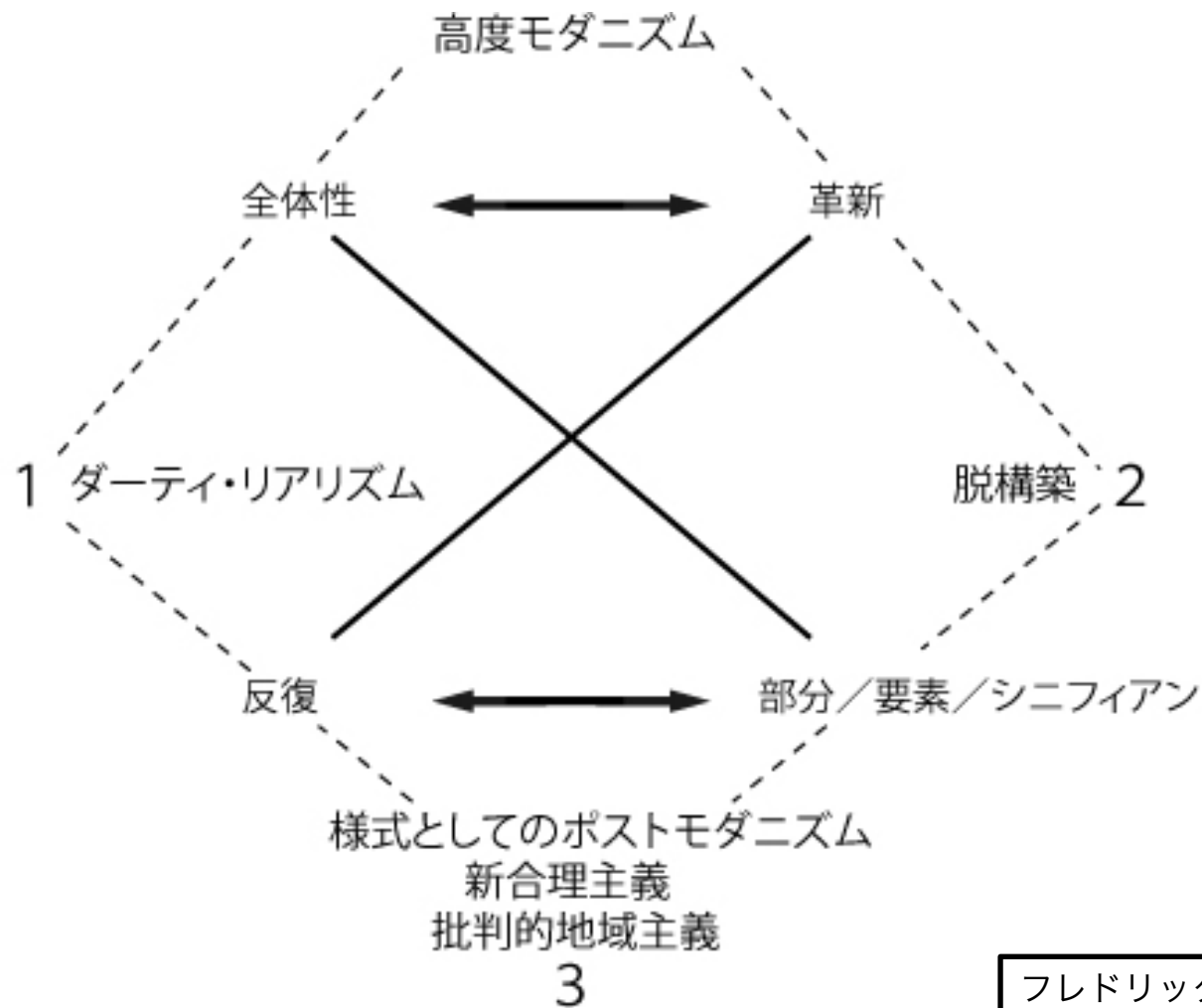


現代建築の指標について

—多木浩二の現象学的言説から見るポストモダニズム期—

東京理科大学 坂牛研究室 4109089

中東壮史



フレドリック・ジェイムソン：
ポストモダン期の建築における
イズムの整理

ポストモダニズム期の言説を再考



現代の建築思想との繋がりを探る

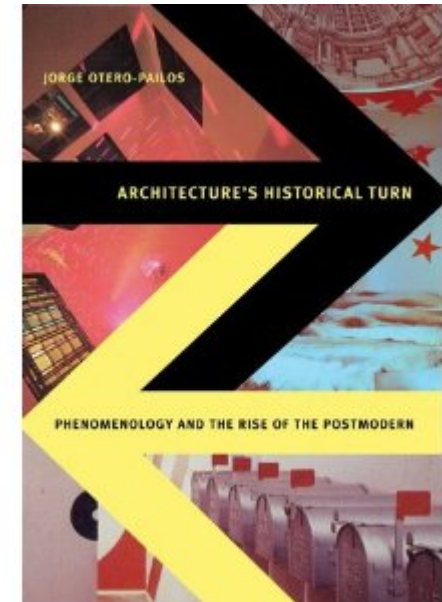
多様なポストモダニズム期の建築思想にひとつの視座を与えることで、当時の思想を再考する。その中で、「表層的」だと言われるポストモダニズム期の示唆と、現代の思想との繋がりを見つける。

Architecture's Historical Turn

建築現象学の世界的位置づけ

建築現象学という分野の確立は世界的に認められている。しかしながら、日本においては建築批評の切り口としてあまり注目されていない。

- 。建築現象学の成立当初の対象は基本的に場所であったが、現在の研究では幅広い対象を扱っている。





多木浩二氏著作歴

多木の批評対象は建築に限らず、芸術全般や哲学、文化人類学などにも及んでいる

同人（中平卓馬・高梨豊・岡田隆彦、2号から森山大道が参加）『プロヴォーク』1号、1968.11 / 2号、1969.3 / 3号、1969.8

共編（中平卓馬）『まずたしからしさの世界をすてろ——写真と言語の思想』田畑書店、1970.3

編集・執筆担当（東松照明・内藤正敏）『日本写真史 1840/1945』日本写真家協会編、平凡社、1971.8

『ことばのない思考——事物・空間・映像についての覚え書』田畑書店、1972.3

共著（篠原一男・杉浦康平・磯崎新・倉俣史朗：対談）『多木浩二対談集・四人のデザイナーとの対話』新建築社、1975.3

共著（篠山紀信：写真）『家 meaning of the house』潮出版社、1975.10

『生きられた家』田畑書店、1976.9

……改訂版『生きられた家——経験と象徴』青土社、1984.3

……改訂版、1993.3（新装版、2000.3 / 岩波現代文庫、2001.2）

『環の隠喩——視線の現象学』青土社、1982.10（ちくま学芸文庫、2008.12）

共著（篠山紀信：写真）『王の夢・ルートヴィヒⅡ世』小学館、1983.6

『「もの」の詩学——ルイ十四世からヒトラーまで』岩波現代選書、1984.11

……再編集版『「もの」の詩学——家具、建築、都市のレトリック』岩波現代文庫、2006.1

『OS file 欲望からの批評1 視線の政治学』冬樹社、1985.7

企画委員（横文彦・原広司・石山修武）『新建築 1985年7月臨時増刊 2001年の様式』新建築社、1985.7

『モダニズムの神話』青土社、1985.9

『欲望の修辞学』青土社、1987.7（新版、1996.6）

共訳（持田幸未子）『1930年代の美術——不安の時代』E・ルーシー＝スミス著、岩波書店、1987.7

『比喩としての世界——意味のかたち』青土社、1988.2

共著（中村雄二郎：対談）『終末への予感——欲望・記号・歴史』平凡社、1988.2

『天皇の肖像』岩波新書、1988.8（岩波現代文庫、2002.1）

共編（八東はじめ）『ユリイカ 1988年12月臨時増刊号 総特集ル・コルビュジエ』青土社、1988.12

共編（八東はじめ）『講座・20世紀の芸術4 技術と芸術』岩波書店、1989.1

『絵で見るフランス革命——イメージの政治学』岩波新書、1989.6

『それぞれのユートピア——危機の時代と芸術』青土社、1989.12

共編（藤枝晃雄）『講座・20世紀の芸術7 現代芸術の状況』岩波書店、1990.3

共編（阿部良雄・藤枝晃雄・三島憲一・八東はじめ）『講座・20世紀の芸術8 現代芸術の焦点』岩波書店、1990.5

『写真の誘惑』岩波書店、1990.9

共著（磯崎新：対談）『世紀末の思想と建築』岩波書店、1991.1（岩波人文書セレクション、2011.11）

『ヨーロッパ人の描いた世界——コロンブスからクックまで』岩波書店、1991.11

『ヌード写真』岩波新書、1992.1

共編（内田隆三）『零の修辞学——歴史の現在』リプロポート、1992.6

監修『近代建築への招待』ユリウス・ボーゼナー著、田村郁志夫訳、青土社、1992.10

監修『20世紀の歴史11 芸術【上】1900～1945 伝統への反逆』ロナルド・タムプリン編、井上健監訳、平凡社、1992.11

監修『20世紀の歴史12 芸術【下】1945～モダニズムを超えて』ロナルド・タムプリン編、畑長年監訳、平凡社、1993.1

共編（植田実・鈴木紀彦・伊東豊雄・坂本一成・白澤宏規）『トリニキュロ——思考としての家具』大槻晃朗著、住まいの図書館出版局、1993.4

『神話なき世界の芸術家——バーネット・ニューマンの探究』岩波書店、1994.1

共編（八東はじめ）『10+1 No.1 特集＝ノン・カテゴリー・シティ——都市的なもの、あるいはペリフェリーの実容』INAX、1994.5

翻訳『デザインの自然学——自然・芸術・建築におけるプロポーション』ジョージ・ドーチ著、青土社、1994.8（新装版、1997.6 / 新版、1999.11）

共編（八東はじめ）『10+1 No.2 特集＝制度／プログラム／ビルディング・タイプ』INAX、1994.11

『都市の政治学』岩波新書、1994.12

共編（八東はじめ）『10+1 No.3 特集＝ノーテーション／カルトグラフィ』INAX、1995.5

共訳（持田幸未子・梅井洋一）『ベルリン——芸術と社会 1910-1933』E・ロータース編、岩波書店、1995.7

『スポーツを考える——身体・資本・ナショナリズム』ちくま新書、1995.10

共編（八東はじめ）『10+1 No.4 特集＝ダブルバインド・シティ——コミュニティを超えて』INAX、1995.11

共著（坂本一成：対談）『対話・建築の思考』住まいの図書館出版局、1996.4

共訳（的場昭弘）『建築家ルドゥー』ベルナル・ストロフ著、青土社、1996.5

『思想の舞台』新書館、1996.7

監修『歴史の天使』ワタリウム美術館、1996.9

共著（今福龍太：対談）『知のケーススタディ』新書館、1996.12

『シジフォスの笑い——アンセルム・キーファーの芸術』岩波書店、1997.6【芸術選奨文部大臣賞】

共編（吉見俊哉）『10+1 No.11 特集＝新しい地理学』INAX、1997.11

共編（大島洋）『世界の写真家101』新書館、1997.11

『建築・夢の軌跡』青土社、1998.3

『船がゆく——キャプテン・クック 支配の航跡』新書館、1998.12

『戦争論』岩波新書、1999.9

共監（内田隆三）『現代都市ドキュメント PROBE01 世界化する都市と建築』TN ブローブ、1999.11

『ベンヤミン「複製技術時代の芸術作品」精読』岩波現代文庫、2000.6

『20世紀の精神——書物の伝えるもの』平凡社新書、2001.2

『船とともに——科学と芸術 クック第二の航海』新書館、2001.7

『もし世界の声が聴こえたら——言葉と身体想像力』青土社、2002.8

『写真論集』岩波現代文庫、2003.6

『最後の航海——キャプテン・クック ハワイに死す』新書館、2003.10

『雑学者の夢』岩波書店、2004.4

『死の鏡——一枚の写真から考えたこと』青土社、2004.11

『進歩とカタストロフィ——モダニズム夢の百年』青土社、2005.5

共監（伊東豊雄・坂本一成）『タッチストーン——大槻晃朗の家具』TOTO 出版、2006.9

『建築と写真の現在 No.1 建築と写真』TN ブローブ、2007.4

『建築家・篠原一男——幾何学的想像力』青土社、2007.7

『肖像写真——時代のまなざし』岩波新書、2007.7

共監（藤枝晃雄）『日本近現代美術史事典』東京書籍、2007.9

『表象の多面体——キーファー、ジャコメッリ、アヴェドン、コールハース』青土社、2009.3

共編（飯島洋一・五十嵐太郎）『現代建築家99』新書館、2010.3

多木浩二の現象学的言説分析

『生きられた家：経験と象徴』

- ・ 現象学的観点から建築観を述べている
- ・ 出版当時、大きな波紋をよぶ



『建築・夢の軌跡』

- ・ 多木のほぼ唯一の建築論集



『生きられた家：経験と象徴』分析

1. 経験の次元

- ・家（＝空間）に時間と、それに伴う人間の行為（＝経験）が蓄積されることで生じる質や、その変化に関する評価

2. コスモロジー

- ・住むことと建てることの一致が欠けた時代において、人間が本質を実現する場所をつくる意志
- ・この場所や領域は、自然的な地形と無関係ではないが、それ以上に身体、家、集落、宇宙をつらぬく認識を示すシステム（コスモロジー）であり、集団が自らの宇宙を構成する場

3. 触覚的知覚

- ・視覚的・触覚的な感覚的刺激はその場への住みつき方をひきだす
- ・家との接触のはじまりはつねに感覚的な世界であり、感覚的なものをあらためて意識することは、家と私たちのあいだで、認識よりもさかのぼった、まだ認識が形成されない初期の経験の地帯をはっきりと見きわめる

『生きられた家：経験と象徴』分析

1. 経験の次元

- ・家（＝空間）に時間と、それに伴う人間の行為（＝経験）が蓄積されることで生じる質や、その変化

2. コスモロジー

- ・住むことと建てることの一致が欠けた時代において、人間が本質を実現する場所をつくる意志
- ・この場所や領域は、自然的な地形と無関係ではないが、それ以上に身体、家、集落、宇宙をつらぬく認識を示すシステム（コスモロジー）であり、集団が自らの宇宙を構成する場

3. 触覚的知覚

- ・視覚的・触覚的な感覚的刺戟はその場への住みつき方をひきだす
- ・家との接触のはじまりはつねに感覚的な世界であり、感覚的なものをあらためて意識することは、家と私たちのあいだで、認識よりもさかのぼった、まだ認識が形成されない初期の経験の地帯をはっきりと見きわめる

『生きられた家：経験と象徴』分析

1. 経験の次元

- ・家（＝空間）に時間と、それに伴う人間の行為（＝経験）が蓄積されることで生じる質や、その変化

2. コスモロジー

- ・住むことと建てることの一致が欠けた時代において、人間が本質を実現する場所をつくる意志
- ・この場所や領域は、自然的な地形と無関係ではないが、それ以上に身体、家、集落、宇宙をつらぬく認識を示すシステム（コスモロジー）であり、集団が自らの宇宙を構成する場

3. 触覚的知覚

- ・視覚的・触覚的な感覚的刺戟はその場への住みつき方をひきだす
- ・家との接触のはじまりはつねに感覚的な世界であり、感覚的なものをあらためて意識することは、家と私たちのあいだで、認識よりもさかのぼった、まだ認識が形成されない初期の経験の地帯をはっきりと見きわめる

『生きられた家：経験と象徴』分析

1. 経験の次元

- ・家（＝空間）に時間と、それに伴う人間の行為（＝経験）が蓄積されることで生じる質や、その変化

2. コスモロジー

- ・住むことと建てることの一致が欠けた時代において、人間が本質を実現する場所をつくる意志
- ・この場所や領域は、自然的な地形と無関係ではないが、それ以上に身体、家、集落、宇宙をつらぬく認識を示すシステム（コスモロジー）であり、集団が自らの宇宙を構成する場

3. 触覚的知覚

- ・視覚的・触覚的な感覚的刺激はその場への住みつき方をひきだす
- ・家との接触のはじまりはつねに感覚的な世界であり、感覚的なものをあらためて意識することは、家と私たちのあいだで、認識よりもさかのぼった、まだ認識が形成されない初期の経験の地帯をはっきりと見きわめる

『建築・夢の軌跡』読解による言葉の再定義

1. 〈経験の次元〉

- ・人間が住むことが建築の根本的なものだと考える
- ・住むという身体的行為を建築（住宅）の中心に据えることへの評価

2. 〈コスモロジー〉

- ・建築家に可能なことは、人の住まう場を発生させる座標を提出すること
- ・住むことと建てることが一致しない時代において、人間の生存の条件を改めて見ようとする眼差しを、生きるための家を成立させる条件として評価

3. 〈触覚的知覚〉

- ・建築が持つ感情的な作用と、それに遭遇した時の感情
- ・建築の内部に「感覚的な世界」を構築した建築家の想像力を称揚

〈経験の次元〉



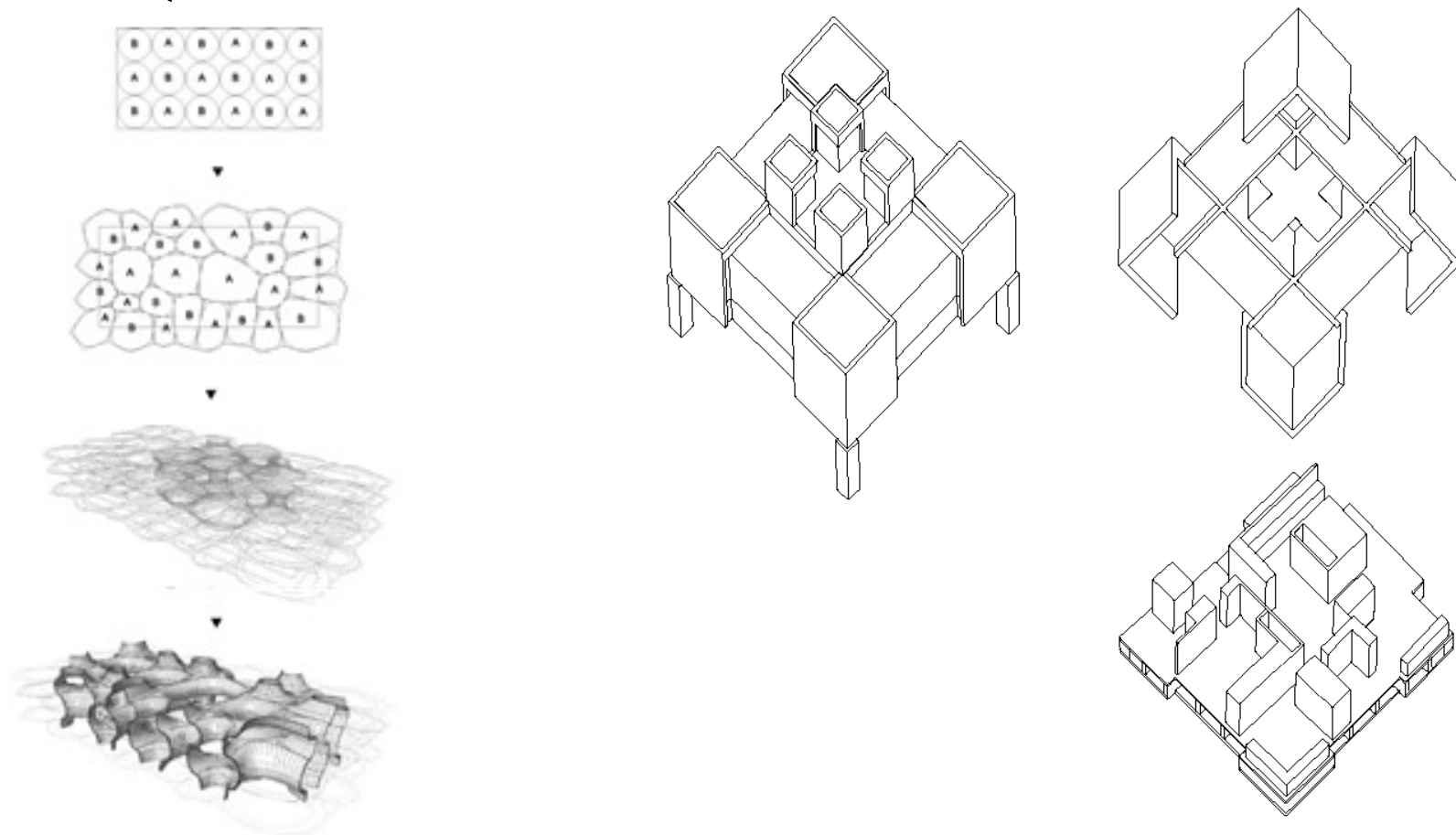
- ・ 住むという身体的行為を建築の中心に据えること
- ・ 住むことが、架構としての家を経験の次元に吸収すること

〈経験の次元〉



- ・ 住むという身体的行為を建築の中心に据えること
- ・ 住むことが、架構としての家を経験の次元に吸収すること

〈コスモロジー〉



- ・ 建築家に可能なことは、人の住まう場を発生させる座標を提出すること
- ・ 住むことと建てることが一致しない時代において、人間の生存の条件を改めて見ようとする眼差し

〈触覚的知覚〉



- ・ 「触覚」とは何よりも経験であり、かつ再現できないもの
- ・ 建築が持つ感情的な作用と、それに遭遇した時の感情の発露

〈触覚的知覚〉



- ・「触覚」とは何よりも経験であり、かつ再現できないもの
- ・ 建築が持つ感覚的な作用と、それに遭遇した時の感情の発露

〈経験の次元〉≡人間の経験による空間の質やその変化

→アクティビティやアフォーダンスなどの身体的な動きと近接

〈コスモロジー〉≡秩序

→単なるオーダーのようなものではない、人間の実存に基づいた指標

〈触覚的知覚〉≡身体性

→近代的人間観を超えた生理的で直接的な反応を重視する近年の傾向に合致

〈経験の次元〉≡人間の経験による空間の質やその変化

→アクティビティやアフォーダンスなどの身体的な動きと近接

〈コスモロジー〉≡秩序

→単なるオーダーのようなものではない、人間の実存に基づいた指標

〈触覚的知覚〉≡身体性

→近代的人間観を超えた生理的で直接的な反応を重視する近年の傾向に合致

〈経験の次元〉≡人間の経験による空間の質やその変化

→アクティビティやアフォーダンスなどの身体的な動きと近接

〈コスモロジー〉≡秩序

→単なるオーダーのようなものではない、人間の実存に基づいた指標

〈触覚的知覚〉≡身体性

→近代的人間観を超えた生理的で直接的な反応を重視する近年の傾向に合致

〈経験の次元〉≡人間の経験による空間の質やその変化

→アクティビティやアフォーダンスなどの身体的な動きと近接

〈コスモロジー〉≡秩序

→単なるオーダーのようなものではない、人間の実存に基づいた指標

〈触覚的知覚〉≡身体性

→近代的人間観を超えた生理的で直接的な反応を重視する近年の傾向に合致

多木の建築批評は、**建築の自律性／他律性**の問題に還元できる

→「建築の建築性」＝建築の自律性、「生きられた」＝建築の他律性

多木の視座はポストモダニズム期の建築の評価でありながら、現代の建築を考察する上で重大な意義をもっている